



総無垢材にスリ漆塗りを施し、
分解組立ができるという業界初の仏壇が誕生した。
再生修理を容易にすることで永遠の美しさを保ち、
100〜200年使える構造となっている。
年月を経てなお価値が高まる「永久仏壇」の魅力に迫ってみた。

天然素材を工芸の技で 磨き上げた本物志向の「永久仏壇」

AQ 仏壇工房（東京都・浅草）

宗派に関係なく、フローリングにも畳にも合う仏壇である。外観はコンパクトでシンプル。表面に塗られた漆が美しい光沢を放ち、落ち着いた色調の重厚な木目が温かみと優しさを感じさせる。

他の仏壇との決定的な違いは、合成木材や化学塗料を一切使用せず、総無垢材や漆といった天然素材のみで造られていることと、分解組立ができることだ。素材には生きて呼吸をする天然の木を、塗装には天然塗料の最高級品である漆が使われている。バラバラに分解組立ができるメリットは、メンテナンスの便利さにある。何十年も使えば塗装は剥がれ、傷も気になるようになる。箱状で固定された従来型では塗り直しも困難だが、分解すれば再生修理も簡単だ。総無垢材の質感は長い年月を経ても変わることはないので、30年おきに漆を塗り直すことによって、新品時の状態を維持することができる。時間の経過で劣化するのではなく、年月を経ていっそう美しさと味わいが増す……それが「永久仏壇」なのである。

原点は社長自身による
「自分が欲しい仏壇」

滝田商店の「永久仏壇」は、現在で3代目の滝田雅敏社長の「自分が欲しい仏壇を造りたい」という願いから誕生した。滝田氏は大正2年創業の仏壇屋に生まれ、3代目を継ぐものとして育ち、店を手伝うようになってからも何の疑問もなく仏壇を販売していた。両親の住まいには仏壇屋らしく立派な金仏壇があり、毎日手を合わせるのが習慣だった。

平成12年、滝田家に突然の不幸が訪れた。父である先代の社長が癌で亡くなったのである。「自分の住まいにも仏壇を置いて亡くなった父と対話したい」と思い、部屋にどんな仏壇を置いたらよいかを考えた時、愕然としたという。

「欲しいと思う仏壇が店の陳列の中になかったんです。わが家には畳の和室がなく、食事の場所を兼ねた洋間のリビングしか置く場所はありませんでした。仏壇屋なのに欲しい仏壇がない、これはかなりショック



○写真左上:漆は和紙で十分にすり込む

○写真左下:伝統技法を使った分解できる構造



なことでした」と滝田氏。

欲しいと思ったのは「リビングにも合う小さくて材質が良い仏壇」だった。狭いスペースなので大きいものは置きたくなかったが、小さくても材質だけはしっかりしたものが欲しかった。さっそく父の時代から手伝ってもらっている、塗師職人の山縣英夫さんと木工職人の置栖忠明さんに相談を持ちかけ、滝田氏のリビングに置くための仏壇製作がスタートした。

まずは材質の重視からである。それまでの仏壇の大半は、死んだ木を粉々にして接着剤で固めた合成木材の芯材に銘木の板を張り付けて作ってあるが、そういったごまかしではなく総無垢の材質でできないものが検討した。高価な銘木が大量に必要なうえ、無垢の木材は生き続けているため十分に乾燥させなければならない。加工製作には高度な技術が必要とされ、一番の難関となった。

次の問題は塗装である。どんな丈夫な木

でも表面は何かしら塗装しておかないと、汚れがしみになってしまう。従来の仏壇は化学塗料が多用されているが、新品の時はよくても劣化が著しく傷や汚れが目立つうえ、修理に大変な手間がかかる欠点がある。やはり日本で昔から使われている世界最高の天然塗料である漆に優るものはない。そして塗り直しを行うためには、分解組立が容易にできる構造が必要だった。

コンセプトは決まったものの、従来のものとは全く異なった仏壇を作るとなると簡単にはいかず、試行錯誤の日々が始まった。

山縣さんはバラバラに分解できる構造とスリ漆の塗り方に、置栖さんは総無垢材の乾燥の方法と材質にふさわしい構造の考案に苦勞することとなる。いくつも見本の仏壇を作り、試作を重ねているうちに、3年近い年月が流れていた。

先代の社長が亡くなって2年9ヶ月経った平成15年2月、ついに「リビングにも合

う小さくて材質の良い仏壇」が完成した。

材質は木の宝石といわれる銘木、ウォールナット。クルミ科の広葉樹で古くから世界の高級家具に使用されており、強靱で耐久性に優れ、狂いも少ないのが特徴だ。樹齢100年の丸太を北米から取り寄せ、十分に乾燥させてから製材して使う。表面には漆を十分にすり込み、室に入れて1〜2日乾かすスリ漆塗りの技法で4〜5回塗り重ねた。こうすることでしっとりした光沢が出るうえ、木の素材感は失わずに木目の美しさを引き立て、時間が経つにつれて表面強度や耐久性も増してくる。スリ漆は古くなっても簡単に塗り直しができ、30年に一度ほど修理をしていけば100年以上使うことが可能だ。組立には胴突き、抜きほぞ、クサビ止めといった伝統的な技法を使い、分解組立が容易にできてごまかしのない構造となっている。厳選した天然素材を工芸の技で磨き上げた、本物志向の仏壇の完成であった。

匠

